

参加型イベントによるソーシャル・キャピタルの醸成に関する研究
 ～宮崎県で開催される杉コレクションを対象として～

宮崎大学 学生会員 ○石井 豊
 アトリエ T-plus 正会員 辻 喜彦
 宮崎大学 正会員 吉武哲信
 宮崎大学 正会員 出口近士

1. 研究の背景と目的

近年、地域活性化や地域づくりの分野において、ソーシャル・キャピタル(SC)¹⁾への関心が高まっており、たとえばSC形成と地域住民のまちづくり意識に関する研究²⁾やSCの概念を用いた農村集落の再編の在り方に関する研究³⁾等がある。これらは、SCとまちづくり意識との関係を実証したものであるが、SCをいかに醸成するかについて検討したものはインフラ整備とSCの育成に関する研究⁴⁾の他に多くはない。また、地域づくりにおいてはイベントが活用されることが多いが、イベントによるSC醸成に関する研究は未だ十分ではない。本研究は、宮崎県で開催されている杉コレクションを対象として、イベント関係者の同イベントに対する評価や参加を通じたまちづくり活動に対する意識変化とSCとの関係を明らかにするものである。

2. 杉コレクションの概要

宮崎県では、デザインコンペ形式の杉コレクション⁵⁾(以降、杉コレ)イベントが2004年から開催されている。このコンペでは、全国から杉材を利用したデザインを募集し、そのうち10名が最終選考に進む。この10名のデザインは、宮崎県木材青壮年会連合会(以下、木青会とする)のメンバーとデザイナーの協同によって実物大に製作され、その作品が最終審査イベント会場に展示され、一般の来訪者の前で審査が行われる。すなわち杉コレは作品製作過程を含むため、木青会メンバーやデザイナー(最終選考通過者)の間でSCが醸成される可能性がある。

3. 調査の概要

杉コレは、2004年から実施されており、2007年から宮崎県の協力を得て規模が拡大した。そこで本調査では、2007～2009年の最終選考通過者とこの間に関わった木青会メンバーを対象とする。この際、最終選考通過者と木青会メンバーは、交流する相手や参加過程が異なるた

表-1 木青会用アンケート調査項目

a.個人属性	・性別 ・年齢 ・居住地 ・木青会支部
b.杉コレクション	・参加回数
参加前	c.まちづくり活動意欲 ・まちづくり活動やイベントへの関心 ・まちづくりやイベントへの参加
企画過程	d.評価 ・苦勞 ・満足度 ・次回への参加意欲
	e.支援 ・支援(どのような人) ・次回開催地への支援
作品過程	f.信頼 ・木青会との信頼 ・最終選考通過者との信頼
	g.規範 ・次回への参加意欲
	h.ネットワーク ・交流(木青会、最終選考通過者、職業、年齢、価値観など)
最終当日	i.満足度・意識変化 ・交流 ・コミュニケーション ・まちづくり活動やイベントへの意欲向上
	j.信頼 ・信頼できる仲間
審査	k.規範 ・次回への参加意欲
	l.ネットワーク ・交流(来訪者、審査員、職業、年齢、価値観など)
参加後	m.満足度・意識変化 ・交流 ・コミュニケーション ・まちづくり活動やイベントへの意欲向上
	n.連絡 ・連絡(どのような人と取れるか)
参加後	o.まちづくり活動意欲 ・まちづくり活動やイベントへの関心 ・まちづくりやイベントへの参加

表-2 最終選考通過者用調査項目

a.個人属性	・性別 ・年齢 ・居住地
b.杉コレクション	・参加回数 ・参加理由
参加前	c.まちづくり活動意欲 ・まちづくり活動やイベントへの関心 ・まちづくりやイベントへの参加
作品過程	f.信頼 ・木青会との信頼
	g.規範 ・次回への参加意欲
	h.ネットワーク ・交流(木青会、職業、年齢、価値観など)
最終当日	i.満足度・意識変化 ・交流 ・コミュニケーション ・まちづくり活動やイベントへの意欲向上
	j.信頼 ・信頼できる仲間
審査	k.規範 ・次回への参加意欲
	l.ネットワーク ・交流(来訪者、審査員、職業、年齢、価値観など)
参加後	m.満足度・意識変化 ・交流 ・コミュニケーション ・まちづくり活動やイベントへの意欲向上
	n.連絡 ・連絡(どのような人と取れるか)
参加後	o.まちづくり活動意欲 ・まちづくり活動やイベントへの関心 ・まちづくりやイベントへの参加

表-3 調査概要

調査対象者	最終選考通過者	2007年都城市での杉コレクション最終選考通過者	7名
	最終選考通過者	2008年日向市での杉コレクション最終選考通過者	8名
	最終選考通過者	2009年日南市での杉コレクション最終選考通過者	9名
		木材青壮年会連合会	60名
調査方式	郵送方式		
調査期間	最終選考通過者	平成22年12月13日～平成22年12月27日	
	木材青壮年会連合会	平成22年12月20日～平成23年1月10日	
回収率	最終選考通過者	45.8%(11通/24通)	
	木材青壮年会連合会	41.7%(25通/60名)	

め、それぞれにアンケート調査票を作成した。表-1に木青会用、表-2に最終選考通過者用の調査項目を示す。本調査では、SCに関する項目として信頼、次回への参加意欲(規範)、交流等を設定している。また、まちづくり活動意欲に関して参加前後での項目(c,n)を設定している。木青会メンバーは、製作過程や最終審査当日の他に企画・準備にも携わっているため、その過程に絞ったSCに関する項目評価項目(d,e)を設けている。最終選考通過者に対しては、製作過程、最終審査当日に関し問うている。本調査の回答方法は、項目a、bにおいては、選択形式、記述式を採用し、その他の項目は5段階評価を採用とした。

キーワード ソーシャル・キャピタル、イベント、アンケート調査、地域づくり活動

連絡先 〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 TEL 0985-58-7331 FAX 0985-58-7334

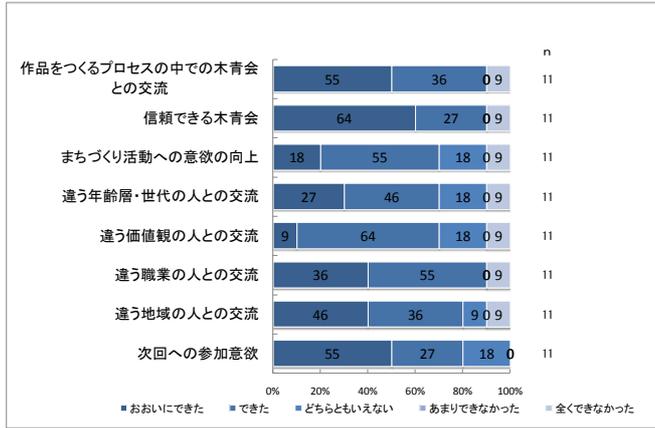


図-1 最終選考通過の製作過程での信頼、ネットワーク、意識変化

表-4 意識変化と信頼、ネットワークとの独立性の検定結果

項目	検定結果
i.製作過程での最終選考者との交流の満足度	**
i.製作過程での違う地域の木青会との交流の満足度	**
f.製作過程での木青会との信頼	**
h.製作過程での違う価値観の人との交流	*
i.製作過程での違う地域の木青会とのコミュニケーションへの満足度	*
j.当日での信頼できる仲間	**
m.来訪者や審査委員とのコミュニケーションへの満足度	*
n.連絡	*
m.期間をおいた後の杉コレクションへの参加意欲	*
o.居住地でのまちづくり活動への関心(現在)	*

**独立性が1%有意 *独立性が5%有意

4. アンケート調査結果

表-3に示すように調査対象者は過去3年間での最終選考通過者24名、木青会60名である。回収率は、最終選考通過者45.8%(11/24通)、木青会41.7%(25/60通)である。

作品製作過程で最終選考通過者と木青会メンバーの密な交流が存在することに着目し、図-1に最終選考通過者の製作過程での信頼、意識変化、ネットワークに関する項目の集計結果を示す。図より、信頼、意識変化、交流に関して大いにできている、できているといった積極的な回答が70%以上と多い。また、最終審査当日でのこれらの項目においても、積極的な回答が60%以上と多かった。なお、木青会用メンバーも同様に、作品製作過程、当日ともに積極的な回答が大部分を占めている。

5. 評価、意識変化と信頼、規範、交流の関係

SCに関連する項目とイベントの評価やまちづくり活動への意識変化の相互関係を明らかにするために、質問項目間で独立性の検定を行った。表-4に、木青会メンバーの製作過程前後でのまちづくり活動への意欲向上と有意な関係がある信頼・規範・ネットワークおよび満足度の項目を示す。この結果から、製作過程を通じたまちづくり活動への意欲向上は杉コレの各過程での交流等の満足度や信頼との間に関係があるといえる。

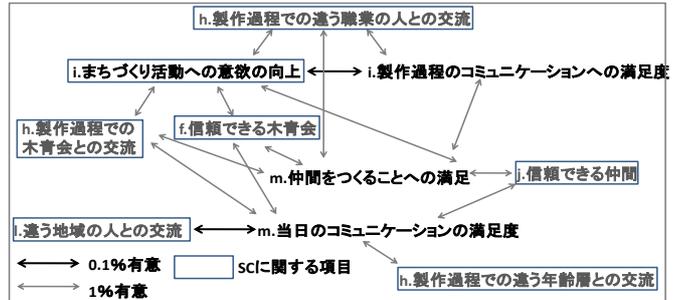


図-2 最終選考通過者の意識変化とSCの項目との関係図

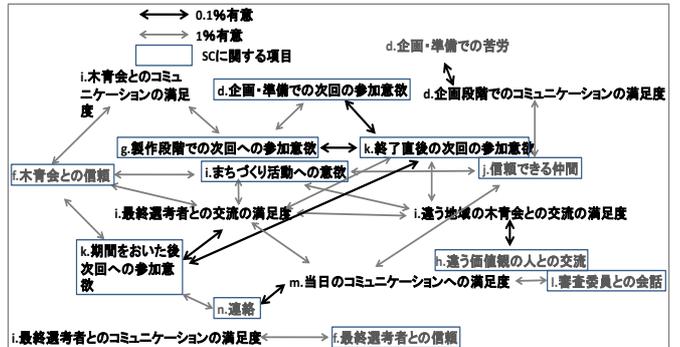


図-3 木青会メンバーの意識変化とSCの項目との関係図

次に特に有意な項目間の関係を図-2に最終選考通過者、図-3に木青会メンバーに關し示す。図-2から、最終選考通過者は、仲間をつくることへの満足度(m)、最終審査イベント当日のコミュニケーションの満足度(m)、製作過程での満足度(i)と交流・信頼の項目(f,h,j,l)間で強い関係がある。また、まちづくり活動への意欲向上(i)と信頼・ネットワーク(h,f,j)の間にも強い関係が確認できる。図-3から、木青会メンバーはコミュニケーション・交流の満足度(i,m)とSCに関連する項目(f,g,h,j,k,l)間で関係があることがわかる。また、杉コレの各過程での満足度(i,m)と次回の杉コレへの意欲(g)やまちづくり活動への意欲(i)間で関係が認められる。

6. 考察とまとめ

以上、本研究の調査・分析から杉コレクションの各過程での満足度は、人との交流や信頼関係やまちづくり活動に対する参加意欲を高めることが明らかになった。この結果から、市民の自発的なまちづくり活動を促すためには、参加型イベントは有効な手法となりうるといえる。

参考文献

- 1) 内閣府国民生活局市民活動促進課：ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて、2002 http://www.npo-homepage.go.jp/data/report9_1.html
- 2) 谷口守・松中亮治・芝池綾：ソーシャル・キャピタルとまちづくり意識の関連、土木計画学研究論文集 Vol.25,No.2, pp.311-317 2008.9.
- 3) 長谷川裕修・田村亨・有村幹治：自然共生地域の持続的発展可能性～社会基盤の役割とソーシャル・キャピタルの育成～、土木都市計画研究・講演集, vol. 33, 2006
- 4) 辻喜彦・吉武哲信・出口近士：インフラ整備と併せたソーシャル・キャピタルの育成に関する研究～日向市における街なか再生事業を事例として～土木計画学研究・講演集,Vol.38
- 5) 月刊杉 WEB 版 http://www.m-sugi.com/01/m-sugi_01-umi.html